

2026年5月	青空機械新聞 業界ニュースとトレンド紹介	発行 第37号
---------	--------------------------------------	------------

日本国内受注数字

アメリカ機械受注が大幅増、旺盛な設備投資続く

日本工作機械工業会が発表した**2026年3月**の日本国内需要の工作機械受注は、**前年同月比2.5%増の504億7,300万円**となりました。前月比では**35.8%増**と大幅な伸びを記録しており、3月期として500億円の節目を超えたのは4年ぶりとなります。

背景には、年度末の設備投資が集中する「期末効果」が明確に表れたことが挙げられます。全11業種のうち6業種が前年実績を上回り、特に半導体製造装置向けや人工知能(AI)関連の需要を含む電気・精密分野が堅調に推移し、内需全体の牽引役となりました。さらに、金型が前年同月比で**20%**を超える大幅増となったほか、建設機械も12カ月ぶりに16億円を突破するなど好調な動きが目立ちました。一方、主要顧客である自動車向けは一部車種への能力増強投資などが散発的に見られたものの、総じて勢いを欠き、やや低調な推移にとどまっています。

企業の投資意欲は根強く、特に長期運用による老朽機の更新や、深刻な人手不足に対応するための生産性向上・自動化・省力化を目的とした確実な更新需要が市場を強力に下支えています。労働力不足を補い、次なる成長へとつなげるためにも、市場が動いている今、タイムリーな基盤強化に踏み切ることが今後の明暗を分ける鍵となりそうです。

発行元 会社概要

会社名：株式会社青空機械 (あおぞらきかい)

代表者：青木 佑典(あおき ゆうすけ)

主な事業内容：工作機械販売

住所：新潟県新潟市東区中山4-4-13-3

TEL：070-8303-6632

FAX：050-3588-8241

Email：aoki@bsmt.co.jp

米国の**2026年3月**の工作機械受注額は前月比**40.3%増**、前年同月比**31.5%増の\$681.3 million(約1,080億円)**という高い伸びを記録しました。これにより、**2026年の累計受注額は\$1.61 billion(約2,550億円)**に達し、前年同期比で**27.8%増**という極めて堅調なスタートを切っています。

この背景には、激動する関税制度や貿易政策の不確実性を乗り越え、サプライチェーンの国内回帰を本格化させている米国内企業の旺盛な設備投資意欲があります。2月下旬に勃発したイランとの戦争による地政学的リスクの高まりや、年初からの工作機械のインフレも、現在の製造業の勢いを止める要因にはなっていません。特に、米国製造業界が直面している約50万人規模の深刻な労働者不足を背景に、省人化と生産性向上を狙った自動化・ロボット化への投資が加速して



おり、これが1案件あたりの平均受注額を大きく押し上げています。

生成AIの急速な普及に伴うデータセンターの新設・拡張により、世界的な電力需要が急増しています。これを受けて、動力伝達装置や大型エンジン、タービンなどのメーカーが投資を前月比2倍以上に拡大しました。また、航空宇宙分野も民間機の受注残消化や、イラン情勢に伴う軍事防衛生産の強化により高水準の需要を維持しています。

人手不足の長期化を背景に、単なる現状維持ではなく、生産革新を目指す攻めの投資が主流となっています。(AMTレポートより)

2026年4月 米国自動車販売台数(新車)

2026年4月の米国新車販売台数は前年同月比**6.0%減の137万4,365台**でした。4月の季節調整済み年率換算販売は**1,590万台/年(前年同月1,790万台)**でした。

※米国では一般的に**1,700万台/年**を超えると新車販売が好調と考えられています。

4月は高止まりする車両価格、中東

紛争の影響を受けたガソリン価格の高騰などの影響を受けるとともに比較対象の2025年4月は輸入車の関税導入前の駆け込みで販売が好調だったことによる反動も作用しました。米国の直近レギュラーガソリンの平均価格は1ガロン約**\$4.4(約185円/リットル)**で、前年同期比で**約38%増**となっております。

インフレの象徴の\$4超えの影響により、4月販売では電動車(EV)販売の高まりや値ごろなセダンや小型車への回帰という現象が現れ始めております。

追加関税については米国最高裁の違法判決により還付手続きが始まっていますが、5月1日にトランプ大統領が貿易合意の内容を順守していないとして、欧州(EU)へ自動車関税を**25%**に引き上げると発言するなど、今後の貿易問題に繋がりがねない動きも出ております。

日本車の4月販売は、日産と三菱以外は前年同月から減少しました。トヨタは前年同月比**4.6%減**と2カ月連続で減少しました。ホンダは**0.2%減**、日産**9.8%増**、スバル**17.3%減**、三菱**10.1%増**でした。

米国メーカーの4月販売は、GMが先月に続き前年同月比**12.0%減**と二桁減少し、2025年10月以降7カ月連続のマイナスとなっております。フォードも**14.6%減**と4カ月連続で減少、teslaは**3.3%増**と8カ月連続のプラスとなりました。teslaは**26.9%減**と3カ月連続の二桁のマイナスでした。韓国車の4月販売は、現代自**1.3%減**、起亜**2.8%減**と両社ともに前年同月比でマイナスでした。現代自のハイブリッド車(HV)販売は前年同月比**52%増**で大幅な伸びが続いており、EVは総販売台数の三分の一を占めております。欧州車の4月販売は、VW**18.9%増**、アウディ**9.6%増**、BMW**2.6%減**、メルセデスベンツ**5.7%減**、ボルボ**10.9%減**でした。(マークラインズより)

価格は日本製の2倍。しかし、生産効率は5倍。

この機械こそ、日本の「中小企業」「鉄工所」にこそ導入してほしい。

昨今、超精密加工の現場で一つの変化が起きています。これまで日本のものづくりを支えてきた国産の円筒研削盤での加工に「限界」を感じ、スイスの最高峰・**STUDER(スチューダー)**を新規導入する中小企業や鉄工所が増加しているのです。

日本製品に比べ「価格は2倍以上」。しかし、実際に導入した現場では「生産効率が5倍になった」という劇的な変革が実証されています。

なぜ、**STUDER**なのか。日本の優れたNC補正技術や職人技に対し、**STUDER**は「機械の骨格(物理特性)」そのものが異なります。特許技術である人造石(グラニタン)ベッドと、摩耗ゼロの静圧案内面(StuderGuide)という革新的な構造を採用。朝一の暖気運転や、室温変化に合わせた度重なる寸法補正はもう必要ありません。職人の経験に頼ることなく、電源を入れてすぐにμm(ミクロン)台の超精密研削がスタートします。

機械、工場内設備に関してご質問等がございましたら、お気軽に当社までお問合せください。

株式会社青空機械

TEL : 070-8303-6632

FAX : 050-3588-8241

E-mail : aoki@bsmt.co.jp

青 空 機 械

検索



また、新規の機械購入以外にも既存設備のアフターメンテナンスについてもお手伝いをさせていただきます。

例)今は存在しないメーカーの機械修理、現在の窓口商社を変えたい等々。

まずはお気軽にご連絡ください！！

1台で外径・内径・端面をマルチにこなす複合構造は、多品種少量の段取り替えやスペースの無駄を排除します。「人が足りない、しかし要求される精度は過酷になる一方だ…。」そんな町工場の切実な課題を、10年、20年先もへたらない圧倒的な機械の強さで解決します。

世界最高峰のブランドゆえに、初期投資の敷居が高いことは否定しません。しかし、その先にある**STUDER**製品の費用対効果は、まさに「破格」です。

「まずは話だけでも」という方、大歓迎です！！どうぞお気軽に情報収集程度のお気持ちで当社までお声がけください。**STUDER**の営業担当者と共にお客様のもとへ伺い、豊富な加工事例とともに、なぜ世界中で選ばれ続けるのかを分かりやすくお伝えします。

青木社長の略歴

1986年6月生まれ(満39歳)
2009年 (株)兼松KGK 入社
2010年
↓ 同社新潟営業所勤務
2016年
2016年 日鉄物産マテックス(株) 入社
2017年
↓ 日鉄物産(株) 米国法人出向
2020年
2021年 ユアサ商事(株) 入社
↓ 同社新潟支店勤務
2024年
2024年 (株)青空機械 設立